

なぜ セミは声を限りに鳴くのかな？

仙台も梅雨明けから真夏日が10日連続。

例年は真夏日が数日しかないというのに、今年はやはり異常気象？

早朝からセミの声に今年は暑さを増すようにうるさく聞こえてくるが、聞きながら、ふと「なぜ セミは声を限りに鳴くのかな？」と思った。

セミはご存知の通り、殆ど生涯を地中で過ごし（7年間という説も）、僅か1週間（これも諸説あるよう）を地上で過ごして死ぬと言われている。例年、我が家の庭でも、数ヶのセミの抜け殻を見つける。

生物学的には「鳴く」といっても実際は羽を摺り合わせる音で、オスがメスを呼び寄せる、いわゆる”配偶行動”のよう。

そうした味気ない生物学的な詳細はさておき、「コミュニケーションとは、想いの伝え合い」という我がコミュニケーション論からすれば、一週間という僅かな時間を声を限りに鳴き続けるセミの声から、「全部話して死にたい！」という直向きなメッセージが聞こえてきそう。

うるさいと云われようと、「我が想いを伝えようと直向きに発信しているかな」と、セミの声を聞きながら反省(-_-;)

さて、みなさんは、「なぜ セミは声を限りに鳴く」と思いますか。